

2008年度 第86回 関西学生サッカーリーグ（後期・第5節）

10月18日（土） 鶴見緑地球技場

第1試合 関西大 vs 近畿大

前節の桃山大戦で後期初勝利、3連敗で止めた近畿大。一方、立命大に逆転勝利した関西大。ともに連勝で勢いに乗りたいこの試合は、関西大にとって関西選手権で敗れ、総理大臣杯出場を逃したリベンジを果たしたい一戦となった。

序盤、近畿大はMF⑦枝本雄一郎、関西大はFW⑩阪本晃司がチャンスをつかむが得点にはならない。両チームともにつなぎのミスのため、中盤でボールが行き来する時間が長く、なかなか攻撃のリズムが出ず、当然シュートで終われない。しかし37分、関西大はMF 24 藤澤典隆の巧みなドリブルシュートで均衡を破った。

追う近畿大は後半に入りペースをつかみ、枝本を中心に同点を狙うが、60分に得点機会阻止でMF⑧山梨洋希が一発退場。これで押され気味だった関西大が息を吹き返し1人少なくなった近畿大を一気に突き放しにかかる。そして5分後、阪本のアクロバティックなボレーシュートがバーを叩いたリバウンドをFW⑨金園英孝が2試合連続ゴール。その後も、藤澤のヘッド、阪本のミドルと量みかける。最後は枝本のシュートが外れタイムアップ。関西大は連勝でびわこ大・阪南大との勝ち点差2を守った。一方近畿大は自動降格圏脱出はならなかった。

（文：サッカーライター 貞永 晃二）

関西大 2 $\left\{ \begin{matrix} 1-0 \\ 1-0 \end{matrix} \right\}$ 0 近畿大

得点（アシスト）者
37分 24 藤澤
65分 19 金園（17 阪本）

第2試合 阪南大 vs 立命大

阪南大 4 $\left\{ \begin{matrix} 1-0 \\ 3-0 \end{matrix} \right\}$ 0 立命大

得点（アシスト）者
28分 43 棚橋（4 吉川）
55分 43 棚橋（14 東）
62分 43 棚橋（14 東）
89分 46 武井（7 小寺）

前期の好調さを取り戻せず、いまだ波に乗れない阪南大。前節も思わぬドローで首位奪還の好機を逸した。対する立命大も前節、関西大に逆転負けしたが、今節から主将・畑尚行がスタメン復帰し、浮上のきっかけをつかみたい。

ともにつなぐ意識の強いチーム。ほぼ互角の展開だったが、DFの集中力が上回る。しかし、28分、阪南大はFW 43 棚橋雄介が落ち着いたボールタッチでDFをかわし素早いシュートで先制点を決めると、流れは阪南大へ。左サイドをMF⑦小寺優輝と棚橋のコンビでたびたび崩していく。

後半も阪南大がチャンスを作るが、2トップの連係がいま一つ。立命大もFW 43 登弘幸をターゲットに、カウンターを繰り出すが阪南大DFにはね返された。

そして後半10分、阪南大は再び棚橋がDFに挟まれながら、うまいブロックから左足を振りGKの肩口を抜いた。さらに17分にも棚橋がこぼれ球を確実に決め「大学では初めて（棚橋）」というハットトリックを完成。余裕の出た阪南大はパス&ムーブを繰り返し試合を完全に支配する。選手交代で流れを変えたい立命大だがそれも叶わず、交代したFW 46 武井一晃がロスタイムに4-0とし阪南大の圧勝劇が終わった。

（文：サッカーライター 貞永 晃二）

10月18日（土） 高槻市立総合スポーツセンター

第1試合 関学大 vs 姫獨大

前節、大教大に敗北し初黒星がついた関学大。片や姫獨大は、首位のびわこ大相手に終盤で同点に追いつき、貴重な勝ち点1を奪っただけに調子は上向きか。

姫獨大は前節、同点ゴールを決めたMF 35 玉橋尚武をスタメンに起用。先制点は姫獨大だった。MF 20 松本祥吾のシュートで先制点をあげリード。関学大は前節でも先制点を入れられてからリズムを崩したが、同じ過ちは繰り返さずこの1点がイレブンに火をつけた。実にシュート数21。この日、10本のシュートを放ったFW 28 阿部浩之を中心に攻撃を支配し、姫獨大・昌子力監督は圧倒された試合内容に「コメントのしようがない」と苦言を呈したほどだった。前半は幾度となくポストにゴールを阻まれたが、後半に入っても攻撃の手を緩めず、13分には阿部のコーナーキックから、走りこんできたDF②志田野雄一郎が頭で合わせ、どんぴしゃゴール。そして残り3分、またしても阿部からのクロスでDF③飯田洋介が豪快に決め、関学大が逆転勝利を収めた。試合後、関学大の選手たちは疲労困憊で動けず立ち止まる選手もいた。それほどまでに、しぶとく迫る姫獨大に死力を尽くしたというのが分かる試合だった。

（文：フリーライター 久住 真穂）

関学大 2 $\left\{ \begin{matrix} 0-1 \\ 2-0 \end{matrix} \right\}$ 1 姫獨大

得点（アシスト）者
58分 2 志田野（28 阿部）
87分 3 飯田（28 阿部）
得点（アシスト）者
15分 20 松本（22 幸尾）

第2試合 びわこ大 vs 京産大

びわこ大 1 $\left\{ \begin{matrix} 1-0 \\ 0-0 \end{matrix} \right\}$ 0 京産大

得点（アシスト）者
23分 2 船津

ここまで唯一4連勝と絶好調の京産大が迎える相手は、首位のびわこ大。後期、まだ負けていない両チームが激突。後期リーグも折り返しとなり、両者は正念場を迎えた。

「引きすぎた」と京産大の古井裕之監督と話すように、序盤は互いに相手を様子見し、攻めあぐねていた。しかし、チャンスは早くも訪れた。前半23分、サイドから上がってきたびわこ大DF 23 小川優をDF⑥市川恭平が倒しPKを与えてしまう。ここでキッカーはびわこ大の大黒柱・DF②船津徹也。ワンチャンス、きっちりゴール右隅に決める。先制された京産大は前半からベンチが動いた。29分には、前線で動けるMF⑩宮脇雄嗣を投入。

後半に入ると京産大は交代で入ったMF⑧櫛田一斗が積極的に前線へ顔を出すなど、交代選手が随所に効いていたが、びわこ大の守備陣が突破を許さない。終盤、京産大は猛攻を仕掛けるが、最後まで大事な1点を守りきったびわこ大が接戦を制した。後期からびわこ大のゴールを守るGK 47 下西要は「守備が安定してきた分、攻撃もしやすい。厳しいと分かっていた試合で、勝ててよかった。」と安堵の表情を浮かべた。

（文：フリーライター 久住 真穂）

10月18日(土) 橿原公苑陸上競技場

第1試合 桃山大 vs 大院大

後期2連勝でいいスタートを切った桃山大も、3節引き分け、4節は近畿大に1敗を喫した。このゲームは巻き返しを期す上でも、また今後を占う意味でも重要だったが、白星は得ても「攻守ともまだ安定していない」(松本監督)というように、内容的には不満足だったのではない。大院大を押し込んで、決め手を欠き、なんでもないプレーで大院大にチャンスを作られるなどのシーンが目立った。前半26分に相手ミスに乗じて、MF⑧船津がDFラインを突破、クロスFW 29 斎藤が決めて先制したが、その先制点も潤滑油にはならなかった。

対する大院大は苦しい。故障者や出場停止者などの影響で1年生を多く使わねばならないメンバー構成になり、ここという場面で若さがのぞくのも仕方がなかった。攻撃面では右サイドのDF⑤畑中—MF⑩佐藤で再三チャンスを作るなど、意欲的なプレーで桃山大を上回るものがあつたが、決定力を欠いた。DF陣は1失点を喫したものの忠実なプレーは粘りも安定性もあり、戦力が整うまでは、このDF陣をデコに戦う以外にない。

(文:関西学連)

桃山大 1 $\left\{ \begin{array}{c} 1-0 \\ 0-0 \end{array} \right\}$ 0 大院大

得点(アシスト)者
26分 29 斎藤(8 船津)

第2試合 同大 vs 大教大

同大 1 $\left\{ \begin{array}{c} 0-0 \\ 1-0 \end{array} \right\}$ 0 大院大

得点(アシスト)者
67分 9 松田(14 北森)

ようやく同大が3連敗の泥沼から脱した。苦しみぬいての白星だった。シュートが18本と7本、CKが5対1。ゲームは数字以上に同大が中盤を完全に支配して、圧倒的優位で進めながら、パスもシュートもフィニッシュがザツで自らが苦しんだ内容といえた。トラの子の1点も後半6分到大教大が1人減(FW 25 藤原がレッド退場)になり、ようやく20分にFW 35 松田純→FW⑨松田直で取ったもの。今の同大には個々が持つ優れた個人技をチームプレーにどう結び付けていくのか、どこまで徹底させるか、が喫緊の課題だろう。

大教大は前節の関学大戦で猛威を振るつた⑩三好、⑨森原の2トップの一角、三好を出場停止で欠いたのが痛かった。1トップでは攻めの変化、幅が限定されてしまい、同大DFをピンチにさらすまでに至らなかった。しかし守備面では持ち味のタフさに加え、忠実さも持ち合わせ、特にシューティングエリア内で同大の攻めを自由にさせず最小失点に押さえ込んだ。

(文:関西学連)

～第5節の風景～

関西大の中盤を魅了!! ◆藤澤 典隆 選手(関西大・2年) *写真左◆



10月18日(土)鶴見(関西大—近畿大)
■ 撮影:UNN関西学生報道連盟 ■